

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102236		
法人名	一般社団法人 未来会		
事業所名	グループホーム はぎの里		
所在地	熊本市北区植木町鞍掛1782番地		
自己評価作成日	平成31年1月7日	評価結果市町村受理日	平成31年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成31年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・当事業所は利用者様に寄り添い継続的に安定した暮らしができる支援を心がけている。 ・利用者様9名それぞれの個性を大事に心穏やかに安心した暮らしを提供している。 ・家庭生活の延長上に共同生活が楽しめる工夫をその日の状況で行っている。 ・食材についてはこだわりを持っている。米は七城米産地直売無くなり次第に購入その都度に精米いつも新米感覚です。 ・鮮魚は田崎市場の朝せり直送便、肉は肉専門問屋からの直売、野菜は家庭菜園での四季折々の新鮮野菜朝採りです。 ・三度の食事は素材を生かした手作りの食事、温かいものは温かく適温適時で提供します。 ・学校行事子供会行事には利用者様と職員が一体となり参加観覧に行く。 ・ホームイベントは地域の方の応援者が多いホームです。 ・地域の皆さんに温かく迎え入れて頂いているホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旬や専門店をはじめ、敷地内で育った野菜など食材にこだわった食事の提供や、竹林を眺めながら露天風呂気分を楽しめる入浴支援、敷地内の散歩をはじめ地域資源を活用した外出支援など、入居者が楽しみと穏やかな時間を過ごせるホーム運営が展開されている。敷地内に育つ草花や職員の持ち寄った花は、入居者や家族をはじめ、来訪者にもっとも心とむ空間である。代表者や管理者は先に開設した小規模多機能事業所での経験を踏まえ、更に地域との連携を大切にしており、定期的な運営推進会議の記録からも、開設1年ではあるが、参加者のホームに対する期待の大きさが伝わってくる。入居者が日中の殆どを過ごすリビングホールは、理念など文字のあるものを掲示しがちであるが、あえてそれらを掲げず、日めくりカレンダーや季節の飾り物などでまとめる等、画一的にならず、文字を好まれない方など現状を最優先にしている。今後も寄り添いのケアに努めながら、地域のホームとして活躍されることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中に根付き利用者様に日々寄り添い個々の個性を大事に、安心して暮らせる支援を状況を踏まえて対処している。	開設を前に代表者と管理者が、入居者への思いと地域密着の重要性を柱として、三項目の理念を作り上げている。開設当初はそれぞれの職員が不安や戸惑いを抱く中、まずはホーム内が家庭的である事、挨拶をする事を心にとめ入居者が安心して過ごすことのできる環境作りに努力している。現在、リビング内に理念の掲示が無い理由には、入居者同士のトラブルを招かないようにとの配慮からであり、必要な事柄は入居者に文章を読んで口頭にて伝える様に工夫している。	この年度末には全員で理念をもとに1年の振り返りを予定している。新年度へ向け、運営推進会議などでも地域へ向けた理念の啓発を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の周囲は民家に囲まれている、駐車場からホームまでの距離、顔を合わせたら挨拶を交わす、近隣者が作業着で訪ねて来て下さる関係作りが出来ている。	同敷地内に先に開設した法人の小規模多機能事業所があり、地域の認知度はすでに確立していることから、初年度は様々な機会に地域へ出向き、あるいはホームに立ち寄ってもらいながらホームの存在を啓発している。散歩中には近隣の人々と気軽に挨拶を交わし、野菜の差し入れを受けたり、地区の集会に心ばかりの品を提供して、普段の付き合いが出来ている。公民館での敬老会行事には殆どの職員が出席し、小学校の運動会では席を用意して待ってもらうなど交流の機会もたれている。	地域との交流にホーム一丸となって努力しており、今後も入居者の体調を見ながら交流の場を提供していきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中でサロン活動があるその中の行事計画開催時(踊り、交通講話、オレオレ詐欺講和などすぐに忘れてしまわれるがその瞬間の反応は大きい)は職員と利用者様と一緒に参加、散歩の途中には声をかけて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域自治会長を中心に校区の民生委員で構成メンバーで行政職退職者看護師資格者在籍。2か月毎に開催。利用者様の健康状態生活状況報告その内容についてアドバイスを受けた時は率先して実行する。	地域交流室を会場として2ヶ月ごとに開催され、第1回目の会議は、開設50日を迎えた時点でのホームの現状を伝えている。入居者の受け入れにあたり、一度に入ってもらいだけでなく1名づつ時期をずらしながら入居者してもらうことで、落ち着いた雰囲気の中に、新たな入居者を迎える様に工夫したことなどを紹介している。地域包括支援センター職員をはじめ、地域代表者からの意見や提案も多く、運営に取り入れる等会議を活用している。	地域代表者が多数参加するせっかくの機会であり、今後も家族への参加の呼びかけを検討いただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ささえりあ植木からも運営推進会議に出席情報伝達、現状の理解はされている。認知症サポート会議等を交流室で開催、市町村との連携協力体制の構築をはかっている	地域包括支援センター職員が毎回運営推進会議に参加しており、ホームの現状や地域情報を共有し、運営に反映させている。「らん伴」開催に際しては、各準備に携わる関係者への交流室の場所提供などを行っている。管理者は不明な点や相談事があれば、直接行政を訪れ関係継続に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については理解して入職してきている職員。 玄関の施錠身体拘束はない。	ホーム内の研修計画やスタッフ会議に身体拘束や虐待を組み入れており、外部研修後も復講により拘束はしないことを前提として更に共有する場を設けている。入居者との関わり方について代表者は、人を間において相手と話すのではなく、自分が動いて相手と話すように伝えている。開所直後は入居者を段階的に受け入れるなど、入居者、職員相互の精神的ストレスにも対応した措置がとられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については各自学び入職、虐待なし。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族の申し出があるときは対処している。相談を受けたときは関係機関に伝達申し出者の支援にをす。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用に至るまでの経緯で契約内容に触れながら事業所の説明を行っている。いざ利用を決めて契約するときは再度読み家族の疑問に回答し納得契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来設された家族とは近況を伝えて会話をする機会設けることにしている。管理者不在の時は勤務者が対応しその内容を職員は管理者へ伝えること管理者は重要な内容は運営推進会議に提案する。	一日の生活の中に入居者と職員がゆっくり過ごす時間を持つよう心掛けており、入居者の何気ない一言に耳を傾け、必要な内容は全員で共有するようにしている。昨年9月には夕涼み会を開催し、家族に入居者の様子を直接見てもらいながら、地域との交流を体験してもらうことで安心に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員へ声をかけている。毎日見ていると様子に変化を感じたときは早期に話ができる時間を作ることを心がけている。内容により反映させることもある。	管理者は、入居者と同じく職員にもそれぞれに歴史があり、個々を尊重しながら力を発揮してもらうように心がけている。また、将来的には体制が整えば看取り支援も視野に入れていきたいとしている。月2回の職員会議はケア会議を兼ねており、入居者の現状を共有して支援の充実を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各々の性格を把握している。各自が向上できる言葉かけを日頃から心がける職場の雰囲気働きやすくする人員配置勤務時間など公平になるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各々の力は違っていても利用者様への寄り添いのケアは可能と判断する。法人内外での研修に積極的になり向上心を持つ職員には優先して勉学できる配慮を心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流研修会には参加する。外部に出ることで自意識の向上に繋がる又持ち帰り職員へ情報提供することで質の向上日々のケアが充実する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話の間では言葉を挟まないで傾き傾聴の姿勢 よく聞くことで安心感を感じて頂き、内容次第ではボディタッチ手を取るなどさらに身近かに感じる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を傾聴その後家族に沿うサービス内容の提示を、家族に選択肢を与えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けて話を聞いている段階で最も必要な支援の提示を行いその次に必要な支援内容を明確にし本人家族の暮らしが成り立つことを優先に経過観察、状態に応じて早期に変更もできる手段に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の傍に寄り添い必要な介護だけではなく話を聞く、一緒に考える時間を持ち同じ目線で物を見る仲間と共に暮らしをしている。食事と同じテーブルに座り同じメニューを食べる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の本人に対する思いを聞き取る、家族の思いを大事に日常家族に代わり本人と親しく良い良い関係を築いている又時間を気にせずに面会および電話連絡で情報交換ができるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の思いをもとに家族からの情報をもとに時間が許すときはその場所へ同行を心がけている。 美容院などは近距離であれば同行も検討している。	家族の面会が多いホームであり、外出や外泊の協力も得られている。行きつけの美容室に外出される方もあるが、馴染みとなった訪問理容を利用する方もおられる。入居者の趣味や特技、習慣が活かせる場面を後押ししており、入居前からのコーヒータイムを受診後に楽しまれたり、得意な書道や洋裁がホームでも出来る体制をとっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の座席を決めずに自由にしている。誰れとでも話ができる雰囲気になっている。顔の覚えあり一人でも見えないと心配の声が出る。 テーブル座席は皆の顔が見える設定にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了した方で新しい事業所探しを要望されたら一緒に施設見学説明を聞き相談支援に努め又家族の思いを転居先にも代弁することも考え一度面識を持ち関わりを持った方にはいつでも訪ねて来て下さいと努めて話をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の思いに寄り添うことに重点を置いている暮らしにはそれぞれに特徴もあるがその人が好むことを行うことでゆったりとした暮らしの支援もできる。心身の状態を職員間で検討することになっている。	職員は入居者とゆっくり関わり、普段の生活の中にしたいこと、食べたい物、行きたいところを話の中に盛り込み思いを聞き取っている。入居前の暮らし方がそのまま生かせる環境作りを、家族やホームを取り巻く人々とともに協力しながら支えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に面談、生活の場を確認することを励行している。言葉で聞くよりも実際に見ることでより情報を知ることができる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用前の暮らしから利用に至る情報を職員間で共有し、残存能力を把握し現状の生活が快適にできる支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りで気になることは申し送りで提案観察検討を行い即行動に移し経過を観察するなどその場で起きた要件はその場にいる数人でも話し合い即対処できる体制、勉強会で連絡報告相談改善でより良い介護実践に取り組んでいる	ホームは入居者にとって“暮らしの場”であるからこそ、わかりやすい表現に徹し身近な話を心掛ける様にしている。殆どの入居者が自宅からの利用であり、これまでと変わらぬ生活支援を心掛けており、大正生まれの女性が今でも好きな洋裁に取り組み、作品作りが励みになる等個々の生活歴を尊重したプランになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は本人の状態へ変化を書き込み職員間で共有する。安心して穏やかな暮らしができる事を目標にその都度必要があるときは見直しをして即実践できる計画を周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズはそれぞれに変化する、その変化するニーズを全てを取り入れることは困難、優先順位を家族と相談して柔軟な対応ができる範囲で対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの所在地の地域資源を活用している。 楽しみが持てる外出支援地域の文化祭に参加小学校の運動会、サロン活動など他者と交流できる散歩の途中で声をかけて頂く地域の中で楽しめる支援を励行。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院もあるが当ホームではかかりつけ医師の診察を受ける事にしている。本人と医師とホームの顔の見える関係作りを徹底している。急激な変化の時も主治医に連絡ができる関係作りが出来ている。	本人・家族の希望するかかりつけ医を支援しており、定期受診は基本的に家族対応としているが、ホームも必要に応じて同行している。また、緊急など定期受診以外はホームで対応し、結果や日頃の状況は家族と共有に努めている。主治医とは日頃から連携を図り、緊急時や気になる事は連携や相談ができる関係を作っている。	受診は家族で対応しており、今後も帰園後の結果報告など、管理者不在時も伝達がスムーズに行われるよう、職員間の連携や対応方法を、あらかじめマニュアル化されることも良いと思われる。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と介護職は両輪で働くことを原則。医療的なことが発生した時は看護の目で判断 必要時Dr連絡する。ささやかな変化も見逃さない日常必要な観察要点の指導をしている又情報の共有は看護介護問わずに申し		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は管理者が医療機関に出向き情報の共有を行い関係構築に努めている。 看護師介護職も入院時は面会に行くことを心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設見学申し込みの時点で重度化した際の説明は行っている。	重度化・終末期支援については、ホームとしての力をつけていき、進めていきたいとしており、現在のところ取組は行っておらず、状態に応じて検討することとしている。開設から入居者の入れ替わりはなく、ホームでの対応が出来なくなっても、退去後も家族に寄り添い努めていくことを方針としている。	介護度が重い方は現在はおられず、穏やかな日常を過ごされている。今後も普段の関わりを大切にケアに努めていかれる事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には状態確認後代表者、管理者へ連絡、主治医に報告指示を受ける。連絡方法の統一。事故のときも同じ。 急変時の対処方法はバイタル測定意識含む確認をすることを日常的に話している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練夜間想定で開始した。近隣の住民、地元消防団員、運営推進会議メンバーも参加。 地域の力を借りて訓練行い顔見知りの関係を構築している。消防署への通報は自動通報システム操作、職員への連絡網は張り出している。	開設1年のホームは、12月に運営推進会議メンバーの参加協力を得、夜間火災想定訓練を実施している。また、年度内に計画している訓練では、消防署勤務の経験(救急救命に精通)のある方の参加を予定している。災害食備蓄としては、米と乾物を確保しており、敷地内に井戸も備わっている。先般の熊本地震では、隣接する小規模多機能事業所で被災者を受け入れている。	今後も火災に加え自然災害を想定し、まずは机上での訓練など取組が期待される。また、訓練の際は家族にも参加を呼びかけ、意見を受ける事も良いと思われる。取組に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人にとって大きな声で言われたくないことは必然と傍に行き小声でその人にだけしかわからないように話す。内容次第では要件を依頼する方法で別の場所で伝える。柔らかく小声で。原則利用者様のことを大きな声で言う事は禁止している。	入居者への言葉使いは思いやりを持って伝える事を職員間で周知に努め、呼称は苗字にさん付けで対応している。また、代表者は職員は入居者の傍に寄り話すことや、人を飛び越えて大きな声を出さないなど、日常の中で大切にしてほしいことを指導している。起床時の整容をはじめ身だしなみには特に配慮し、好みや季節に応じた衣類の着用、保湿やお化粧なども家族の協力を得ながら行っている。整髪は訪問カットや、受診先の医療機関内にある美容院の利用などが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	問いかけ方式で単語で答えができる働きかけをしている。瞬時に自己決定がしやすい問いかけで本人の意思を引き出し対処している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の決まりを決めずに利用者様優先で一日を過ごす事になっている又一日の職員が複数に重なる時間帯を利用して個人別に対処及び職員が行なわなければならないことを施行、原則として寄り添う支援を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大事に小奇麗な姿で一日が過ごせる支援をしている。例えば女性でパーマを数か月毎にかけていた方、ボブカットを希望の方には美容室へ同行する等その人が納得できる髪型に、好みの服を着るなど身だしなみの支援は心がけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者職員でテーブルを一緒に囲み食事おやつは食べている。準備は一緒にしている。 配膳片付け器洗いは女性利用者と職員で行う。通常会話で嗜好の確認はしている。家庭菜園で採れた旬の野菜を使い調理する。	献立は交流のある栄養士によって作成され、専任者を中心に調理されている。こだわりの食材の使用(七城米・精肉鮮魚は専門店)や入居者の好み、旬を活かした日々の食事は入居者や家族にも好評で有り、職員も同じものを一緒に摂ることで思いを共有している。また、自然排便にも繋がるよう、手作りのヨーグルトは毎日一品として準備されている。明るいリビング食堂で会話も弾み、食事の席も見守りなど状況に応じて決定されている。入居者もおやつ作りに取り組んだり、洗い物やお盆拭き、下膳など出来る事で食への関わりを支援している。	普段のホームの食事提供の様子を見てもらいたいと、家族との食事会も検討されている。実現に期待したい。食後に同じ器を重ねていかれる方や、味の感想を語られる方など、日々の光景が伝わってきた。今後も入居者の楽しみとなる食事支援の継続を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士作成の献立で調理している。米は七城米のご飯のおかわりもできる。お茶の時間を頻回にして水分飲料は心がけている、好みでコーヒーお茶紅茶等準備している。モーニングコーヒーが好みの方の支援も。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には義歯の洗浄を声かけ誘導する。誘導前に自力で洗浄済まれている方も居ますが 就寝前は義歯を洗浄液につける支援はしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿便意ありトイレで排泄習慣はできているが状態で失敗もある。 リハビリパンツ使用。	トイレは清潔を心掛け、職員は掃除や換気に努める事で、気持ちよく使用できることで自立の継続にも繋げる。昼夜共にトイレでの排泄を基本としており、布パンツやリハビリパンツを個々の状態に応じて使用している。失敗の無い排泄支援に努める事で、本人の尊厳や家族の負担軽減にも繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居前より緩下剤服用者多い。排便状態を個人別に確認している。下剤服用後反応便があり後始末もしているがトイレから出てきた瞬間に排便の有無が理解ができてない、トイレから出られた後臭気確認するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回にしている。曜日は割り振りしているその日の入浴を拒否されたら場合は週3回を基準にしている。時間帯は15時30分以降から入浴タイムにしている。	入浴は基本的に週3回、15時30分から支援しているが、汚染時などはその都度対応し、清潔保持や不快なく過ごせるようにしている。職員は入浴までの時間をしっかり関わり、十分な体制で安全な入浴支援に努めている。竹林を眺めながら露天風呂気分を味わえる入浴は、ホームの特徴であり脱衣所や浴槽の行き届いた掃除と合わせて、入浴の楽しみを増している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体の状態が必要時は安静の時間を作る。消灯時間の設定はしていない為にホールでの談笑時に眠たい方は居室へ入り入眠される。寝具は使い慣れたものを持ち込んでいただいているので慣れた布団での眠り。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容の目的副作用は職員理解している。治療の一環での服薬、症状の確認変化は必須にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	談笑の中で自分自身の生活史を語り自分が歩んできた道を振り返り楽しかった思い出を聞いてもらうことに楽しむ光景を見る又その人の日常生活での役割は自分でできる範囲の事をして楽しめる支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換には野外活動も必要。まだ開設して1年未満それぞれ入居した季節に違いがある。季節の風景を見る等野外に出る機会を設けている。運転手を依頼して職員付き添いでドライブに出かけたり、職員の運転で近隣の公園など散策に出かける支援をしている。	ホームは竹林や庭先には花苗が植えられ、季節を感じながら散歩や外気浴を楽しめる環境である。敬老会や運動会、文化ホールでのイベント(太鼓やダンス)など、案内を受けたり情報を収集し出かけている。また、小学校から TENT を借り開催した法人の秋祭りには地元の方々も多く参加されるなど、地域との繋がりを大切にしながら、入居者が戸外に出る機会を支援している。ドライブを兼ねて大型スーパーでの買い物や食事、小野泉水公園、隣町へみかん山と海を眺めに行くなど、地域資源も活用しながら、様々な外出支援が聞き取りからも確認された。	家族の協力によりドライブや盆・正月の帰省なども行われており、今後も地域や家族の協力を得ながら、外出支援に取り組まれることを期待したい。また、カフェ外出を楽しみにされている方もおられるようであり、実現が期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を持っていることも忘れていた管理も充分にはできない方も利用されている為に金銭の所持はなしにしている。が世帯主の方は少額を長男承諾の基に所持している為に毎日確認の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話かかるかける要望はなし手紙も同様。それぞれに家族の面会がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちの良い空間を設定されている。居室全部の窓から四季を感じる竹林が見える又脱衣場浴室からも同じように竹林が見える。建物構造は木造、木のぬくもりの中で暮らができる。ホール全体に日差しが差し込み夜間はLEDライトの明かりで小粋なカフェの雰囲気もある。	入居者が集うリビングホールは、木材の良さを活かし圧迫感の無い、天井の高さとゆとりの広さである。入居者同士や入居者と職員の方言を交えながらの談笑は心地よく、ホームの日常が伝わってくる。ホールには関係者から寄贈された雛段が飾られ、3月の節句を皆で心待ちにされている。入居者に良く見えるよう、代表者によって準備された大判の日めくりカレンダーは下げられているが、入居者の状況から文字のあるものは掲示を控えている。	ホーム内は臭気もなく清潔に管理されている。また、職員は庭先に咲いた花を持ち寄り、季節感のある空間に努めている。継続した取組に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを数多く椅子に座る空間をホールの中に取り入れている。どの場所に座ってもよい雰囲気になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に持ち込む品物は個人で対処。整理整頓しやすい物を持参されている。配置は家族と本人の思いでレイアウトされている。	入居時に、寝具をはじめ、これまで自宅で使用していた物を持ち込んで欲しいと説明している。馴染みの品に加え、シーツや布団カバーについては、小まめな洗濯が出来るよう二組を依頼している。収納庫が設けられた部屋は広さにもゆとりがあり、デザインや縫製も自らされた衣類や、使い慣れた化粧品、得意の書や写真が飾れた部屋など、本人や家族の思いが伝わってくる。中には仏壇やお位牌が置かれた部屋もあり、自宅への帰省時はお位牌を持ち帰られている。	入居後も必要な物がないか尋ねられる家族もおられるようである。今後も本人にとって居心地よく過ごせる居室作りを、家族と一緒に取り組まれることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体バリアフリーで広々したホール。居室からトイレまでの動線も分かり易く設計、洗面台で洗顔も容易にホール内で、工夫を生かした自立した動きで暮らしができる新築のホーム。		